

博物館 NEWS

ニュース



蔵王権現立像 1 軀 平安時代（12世紀） 重要文化財
奈良国立博物館蔵（写真提供/奈良国立博物館）

蔵王権現さおうこんげんは、山岳修行者で修験道しゆげんどうを始めた
とされる役行者やくこうじが、大和国吉野の金峰山で感
得したと伝えられる像です。修験者などに厚
く信仰され、各地の靈山に遺品が伝えられて
います。像は高さ30.5センチ、銅製で渡金が
施されています。この像は左足一本で立ち、
右手を高く持ち上げた典型的な蔵王権現像の
形式を示しています。制作期は平安時代後期
（12世紀）と推測され、この時期の蔵王権現像

を代表する作品として、重要文化財に指定さ
れています。

国立博物館・美術館巡回展「信仰と美術」
（平成14年2月19日～3月21日）では、これら
の仏教美術をはじめ、古代の信仰に関する土
偶・埴輪など、日本の代表的な信仰に関する
国宝・重要文化財などの優れた文化財を紹介
します。（山川）

阿波の昆虫研究家 |

— 高橋 尚孝 —

大原 賢二

博物館が対象にしているいろいろな分野には、徳島県にゆかりの方で、日本的に、あるいは世界的にも有名な研究家が何人も知られている。考古学の鳥居龍蔵博士や歴史学の喜田貞吉博士などもそうであろう。このような人は地元の方々には案外知られていない場合が多く、いろいろな分野ごとにそのような人物の経歴や業績を紹介することは大切なことであろうと思われる。

博物館の昆虫担当として、徳島県の昆虫類を調査する中で、いろいろな文献から、過去の徳島県の昆虫に関する研究において、多くの方々が活躍されていることを知った。それらの人物の中に、私が早くから興味を抱いた人がいる。今回、幸いなことにその人物に関する資料をご遺族から提供いただき、その人の略歴等を知ることができたので、阿波の昆虫研究家列伝の第1回目として、高橋尚孝氏を紹介したい。高橋氏は、おそらくもっとも早く徳島県の昆虫のほぼすべてのグループについて日本国内に広く紹介した徳島県人であり、その業績は高く評価されるべき人物である。

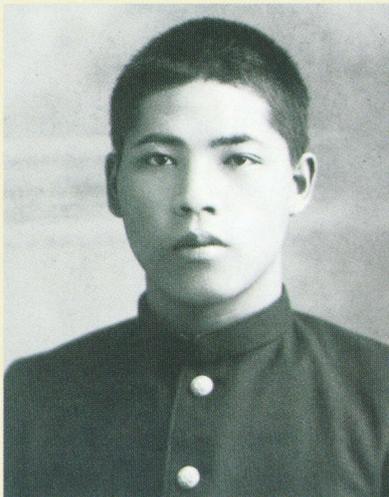
高橋尚孝氏は、現在の徳島市立城西中学校に近い加茂村矢三に、父団三、母クマの四男として1914年（大正3）に生まれた。田宮尋常小学校を卒業後、鳴門の親族の家の養子となり、旧制の撫養中学（現在の鳴門高校）に入学。1933年（昭和8）に卒業している。この中学時代の同級生に、現在も活躍中

の植物研究家、赤沢時之氏（元高知女子大教授）がおられ、二人はひじょうに仲がよかったようである。

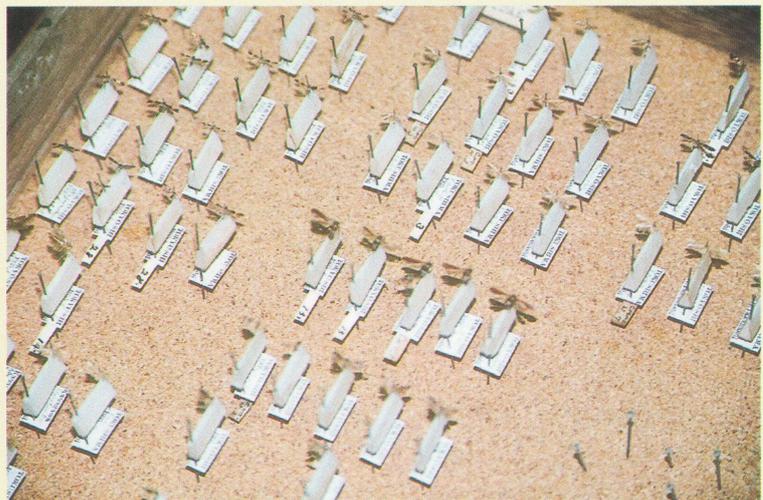
尚孝氏は子どものころから昆虫が好きで、家のまわりや眉山、吉野川の河川敷、中学時代は鳴門市周辺などの昆虫を採集してはその名前を調べている。旧制中学時代の彼はまさに昆虫しかないと毎日で、採集と、得られた昆虫の種名を調べる同定作業の連続であったようである。

しかし、彼は単なる「虫好きの子ども」ではなかったようで、それは、松村松年著の「日本昆蟲大図鑑」が蔵書中にあることから想像できる。この図鑑は研究者や図書館、大学の研究室でもなければ購入しそうにもないもので、1931年（昭和6）6月18日に出版された。日本産の昆虫6000種を扱い、ページ数が約1500ページ、索引が200ページというそれまでの常識を破るような分厚いものである。値段は定価18圓となっている。これが現在の価値に直していくらになるかはよくわからないが、おそらく一般人が簡単に買える値段ではないだろう。彼がこれを購入した日が同年の7月1日と書かれていることから、おそらく予約購入であったと思われる。

尚孝氏が「徳島県の未採集昆虫に就いて」と題して、徳島県の昆虫を初めて記録した（昆蟲世界、36(419): 232-236.）のは1932年で、18歳の時である。その後、当時国内の昆虫関係雑誌としては「昆蟲世界」と並んで有名であった「昆蟲界」に、12回にわたって「吉野川下流地方の昆虫相（1）～



高橋尚孝氏（1933年）



尚孝氏採集の東京市時代の標本



初めて徳島の昆虫の報告を書いた昆虫世界



城東高校長時代の尚孝氏

ると聞いた。多
才
な
人
物
で
あ
っ
た
よ
う
で
あ
る。

その間、虫から
ま
っ
た
く
離
れ
た
わ
け
で
は
な
く、1954
年（昭和29）にア
ブ
ラ
ゼ
ミ
と
キ
リ
ギ
リ
ス
の
聴
覚
器
官
に
つ
い
て
の
研
究
発
表
を
行
い、徳島新聞

（完）」（1933-1937）を報告し、県内の昆虫約700種を記録・報告した。種ごとに採集データを示すのではなく、和名と学名および生息状況を簡単に解説するものであるが、その第1回目には徳島市周辺の自然環境の概説と、「我が友人赤沢氏の研究に基づく」として、植物の分布概要も取り入れている。徳島の昆虫相解明とその成因を明らかにしたいという意欲に満ちたもので、それが現在の高校3年にあたる18歳から大学卒業までに行われたことに氏のエネルギーを感じるのである。

徳島県で発行された昆虫や植物に関係した雑誌類の創刊年を見ると、もっとも古い「阿波の自然」が1947年、「阿波の虫」が1954年、「昆虫科学」が1955年、「とくしま虫の国」が1957年となっていて、尚孝氏が書いた時よりもかなり遅れる。

東京農業大学で、昆虫学を専攻し、1937年（昭和12）に本科を卒業。研究テーマは蛾類の分類であったようで、その当時の蛾の標本が少しではあるが今も残っている。ラベルの地名にはTOKYO-SHIとあり、70年ほど前の東京に生息していた昆虫の一端を知ることのできる貴重な標本である。蛾といっても一般によく見かける大型のものではなく、数mmから1cmほどの小さな蛾類で、小蛾類と呼ばれるなかまでである。小蛾類の研究者は現在でも日本には数人しかいない。当時、このようなグループを研究対象に選んだのは相当に珍しいことではないかと思われる。

大学卒業後、徴兵検査を受け、甲種合格となったが、同時にまったく気がつかずにいた結核を告知されて自宅療養を命じられ、数年間の闘病生活を送ることになる。

太平洋戦争後、病が癒えて学校の教員となり、その後は徳島県内の高校の教員を歴任し、城東高校長を最後に定年退職。剣道が大好きだったが、工業高校時代にはそこの校歌を作曲し、現在も歌われてい

に紹介されているし、40歳ごろ、夏の夕暮れにできる蚊柱の成因に関する研究をドイツ語で発表したりしているが、野外で採集することはほとんどなくなってしまったようで、家人に「体力に自信がないから」と漏らしたという。

50歳過ぎに実家を継ぐ形となり、「生き物とのつきあいをやめざるをえなくなった」と残念そうに話したというが、自分の子どもたちには家のまわりで見られる生き物を一緒に観察してくれるやさしい「オヤジ」であったという。その後、印刷物になった昆虫関係のものは全くなく、1993年（平成5）11月、病のために79歳で逝去された。

小・中学校時代にこれほど精力的に徳島県の昆虫を調査し、報告も行い、矢野宗幹氏や高島春雄氏など当時のそうそうたる昆虫学者との交流もあった尚孝氏は、指導者に恵まれれば相当の研究ができた人であろうと思われるだけに、戦争や病気が、一人の昆虫学者が育つことを拒んだとも思われてしまうのである。

また、「昆虫界」に発表された徳島県の昆虫の目録が、自分の標本に基づいた報告であることは確実であるだけに、徳島県産の標本がほとんど残っていないのは残念であるが、個人で大量の標本を管理することの難しさを考えると、それも仕方のないことであろう。

高橋尚孝氏を知る人はかなり多いであろうが、彼が子ども時代から青年期に、これほど昆虫に情熱を傾け、徳島の昆虫学の先駆者と呼ぶにふさわしい人であったことを知る人は案外少ないのかもしれない。

なお、今回、ご子息の永一氏からは各種資料の提供を受け、上記の雑誌、図鑑、標本等を当館にご寄贈いただいた。心からお礼申し上げます。（昆虫担当）

徳島県立博物館の学校教育支援事業

博物館利用者の中で、学校の児童・生徒はかなり高い割合を占めでの団体見学によるもので、教科学習の一環として博物館を利用するという例はあまりありませんでした。しかし本来、博物館は学校教育にとって役に立つところですし、また、そうあるべきです。最近では、「総合的な学習の時間」の創設に象徴されるような教育改革にともない、実物資料にもとづく体験的な学習ができる博物館と学校教育との連携が期待されています。遠足以外での博物館利用がもっと増えてもよいはずです。

そこで、徳島県立博物館では、博物館のもつ資源（もの・情報・人）を学校教育の場で有効に活用していただくため、団体見学の受入れや児童・生徒向けの各種普及行事に加えて、次のような活動を積極的に行い、学校教育を支援していくことにしています。

(1) 博物館での博物館資料を活用した学習の支援

理科や社会科の授業、「総合学習」などで博物館の資料や情報が活用できます。事前に相談していただければ、展示してある資料だけでなく収蔵資料を臨時に陳列したり、学芸員による解説を行うなどのサービスを行います。

(2) 講師派遣（出前授業）

授業で博物館へ行きたいと思っても、交通手段がないため、博物館まで足を運べないのが実状だと思います。そんな時は、要望に応じて学校での授業や教室外での観察会、教員の研修会などに学芸員を講師として派遣します。学校での授業には、博物館資料を持参するなどして児童・生徒の理解を助けるよう支援します。

(3) 博物館資料の学校への貸し出し

博物館資料の中には、取り扱いが比較的かんたんで学校で活用してもらえる資料もあります。博物館ではそうした「学校貸出用資料」の整備を進めています。学校での授業やクラブ活動、文化祭などで活用してください。

(4) 学校教育支援相談

博物館での学習、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校で自然観察、生活体験、歴史学習などをしようとする場合、先生方でわからないことがあれば何でも気軽にお尋ねください。

学芸員が博物館での普及行事の経験などを踏まえてアドバイスします。

私も、去る9月14日、鳴門市の北灘中学校を訪ね、中学1年生を対象に「化石」の授業を行いました（写真）。今年2月の石井中学校につづく2回目の経験です。

中学校理科2分野の教科書では、「大地の変化」という章の中に「地層の中の化石」という項目があります。そこでは示準化石と示相化石についてかんたんに説明されていますが、示準化石と示相化石を数行で説明することには無理



北灘中学校での「化石」の出前授業

があるし、いろいろな生物の化石をどちらか一方に分類してしまうことは、誤解を招くのではないかとも感じました。そこで、マンモスゾウの毛、いろいろな保存状態の貝化石やアンモナイト、糞化石など20点ほどの化石を博物館から持参し、実物に触れてもらいながら、化石とは何か、大昔の生物がどうやって化石となって残るのが、といった基本的なことを理解してもらえよう心がけました。意外にも糞化石が生徒に大うけで、化石に興味をもち、化石について理解してもらおう手助けになったものと思います。

今後も、機会があれば化石を車に積んで学校を訪ね、生徒や先生との交流を進めたいと思っています。気軽に声をかけてください。

（地学担当：両角芳郎）

信仰と美術

当館では、奈良国立博物館・国立国際美術館・東京国立博物館・京都国立博物館・東京国立近代美術館・京都国立近代美術館の所蔵品の中から、国宝2件、重要文化財17件を含む68件の貴重な文化財や美術作品の数々を紹介する国立博物館・美術館巡回展を開催します。

この巡回展では、考古遺物・仏像・仏画などをはじめ、近代日本を代表する著名な美術作家の作品など、日本人が信仰に触発されて生み出してきた美術のさまざまなすがたを、原始・古代から現代にわたる幅広い視野で紹介します。

また、徳島県に関係した資料として、小松島市田浦町前山遺跡出土の盾持男子像埴輪も展示します。

◇おもな展示品

- 興福寺金堂鎮壇具(奈良時代) 東京国立博物館蔵
- 牛皮華鬘(平安時代) 奈良国立博物館蔵
- ◎画文帝四仏四獣鏡(古墳時代) 京都国立博物館蔵
- ◎銅造薬師如来像(奈良時代) 奈良国立博物館蔵
- ◎威王権現立像(平安時代) 奈良国立博物館蔵
- ◎大日如来像(平安時代) 奈良国立博物館蔵
- ◎十二天像(鎌倉時代) 奈良国立博物館蔵
- 盾持男子像埴輪(古墳時代) 京都国立博物館蔵
- 銅造観音菩薩立像(白鳳時代) 奈良国立博物館蔵
- 伝薬師寺出土鬼瓦(奈良時代) 京都国立博物館蔵
- 五大明王像(平安時代) 奈良国立博物館蔵
- 金閣炎上 川端龍子画(昭和25年) 東京国立近代美術館蔵

(●国宝、◎重要文化財)

関連行事

◇記念講演会

日時 3月10日(日) 13:30~15:00
 会場 文化の森イベントホール(聴講無料)
 講師 松浦正昭氏
 (奈良国立博物館仏教美術研究室長)
 演題 「仏像と日本美術」

◇展示解説

日時 2月24日(日) 14:00~15:00
 3月 2日(土) 14:00~15:00
 会場 巡回展会場(入場には観覧料が必要)
 講師 当館学芸員



国宝 牛皮華鬘 奈良国立博物館蔵 (写真提供/奈良国立博物館)

華鬘は寺院内部を飾る荘厳具。牛皮に彩色された珍しい華鬘。上図には、極楽にいるといわれる迦陵頻迦(かりょうびんが)の鳥が表現されている。もと東大寺に伝来。平安時代後期(11世紀)を代表する遺品。

◇会期 平成14年2月19日(火)~3月21日(木)
 月曜休館

◇会場 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

◇観覧料 一般 200円/高校・大学生 100円
 小・中学生 50円
 (20名以上の団体は2割引)

◇主催 奈良国立博物館・国立国際美術館
 徳島県教育委員会・徳島県立博物館

園瀬川で発見された

タコノアシとフジバカマ

2000年に発行された環境庁（現環境省）のレッドデータブック（RDB）に掲載されている絶滅危惧種が2種、園瀬川の周辺で発見されました。どちらも県内ではめったに見られなくなった植物で、道路工事や河川改修などによって絶滅する可能性があるので報告します。

■タコノアシ

川やため池などの流れのゆるやかな泥湿地に生える植物で、環境庁のRDBでは絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）に指定されています。河川改修や農地改良、ため池の埋め立てなどで生育環境が奪われ激減しており、このままだと300年後には絶滅するとのことです。

徳島県内では山川町・板野町・石井町・市場町・徳島市に記録がありますが、現在では、穴喰町と鳴門市で生育がみられるだけです。徳島市内ではかつて吉野川周辺やため池などに生育していたものの、最近では確認されていませんでした。ところが、徳島県版RDBの調査員である

田淵武樹氏が、園瀬川近くの徳島市八万町の水路横で発見し、筆者が追加調査したところ、園瀬川横の用水路でも生育を確認しました。



タコノアシの花序（左）。蛸の足のような形をしているので、その名が付いた。花の拡大（下）。小さな目立たない花を付ける。



フジバカマの頭花（右）。キク科の特徴である、小さな花が集まって一つの花のように見えている。全体が薄く赤みを帯びている。フジバカマの生育状況（下）。水田の横を流れる小さな用水路脇に生えていた。

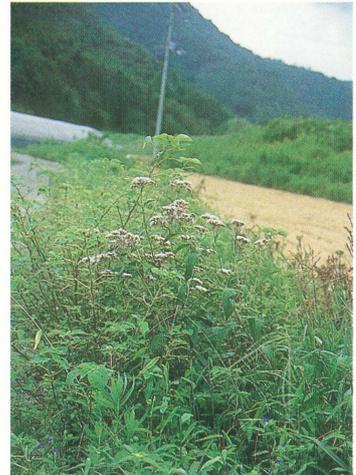


■フジバカマ

河川やため池ののり面、田の畦などの草地に生える植物で、環境庁のRDBでは絶滅危惧II類に指定され、絶滅の危険が増大している種です。秋の七草の一つであり、かつて

は身近な植物でしたが、草刈りや河川の氾濫による定期的な攪乱を受ける、生育に適した草地が減っているため激減しており、100年後には絶滅してしまうといわれています。

県内では佐那河内村・池田町・板野町・川島町・神山町・鳴門市・徳島市に記録がありますが、現在では、阿南市・小松島市・那賀川町などの那賀川や勝浦川周辺で生育が確認されるだけです。園瀬川では数年前八万町の河川敷で過去に1個体だけが見つかりましたが、現在ではみられなくなっていました。2001年9月24日に徳島県立博物館友の会で開催された野外調査行事「園瀬川探検」で、上八万町の園瀬川近くの用水路横で発見されました。現地は、改修工事が行われていない昔ながらの用水で、定期的な草刈りが行われており残っていたのでしょう。その後の調査で八万町の園瀬川の土手でもフジバカマは見つかりました。



私たちの身の回りには、案外自然が残っています。今回見つかった絶滅危惧種も、こんな身近なところにあっただのかと思うような場所に生えていました。ぜひもう一度身の回りの植物に目を向けてみてください。（植物担当：小川 誠）

前山1号墳の調査成果

前山古墳群は、名西郡石井町石井字石井の標高160mほどの尾根上にあり、2基の前方後円墳からなる古墳群です。

博物館では、1996年2月・3月に2基の測量調査を、1999年からは前山1号墳の発掘調査を行ってきました。

今回でほぼ1号墳の調査が終了したので、今まで未報告の部分を中心に、調査成果の概略を報告します。

■墳長及び墳形

全長約18mの前方後円墳で、前方部1段で土を盛って表面に石を葺いています。後円部は石を積み上げて、一部土を補い墳丘を2段として



図1 後円部全景（東から）

います。1段目はテラス状です（図1）。

古墳主軸はほぼ東西（N-76°-W）に向いています。前方部長さ約9m、後円部の直径9.7m程度で、後円部の直径と前方部の長さの比率がほぼ1：1です。前山古墳群の2基も含めて県内に14基の前方後円墳が確認されていますが、その中でも最も小さいものです。

前方部は細長く、くびれ部からややすばまり中央部付近からバチ形に開いていますが、これは、北條芳隆氏によって提唱されている讃岐型前方後円墳の特徴の一つで、香川県の鶴尾神社4号墳、じいまつ 松古墳、のたのいん 野田院古墳や兵庫県のやくやま 養久山1号墳などの墳丘の形と似ています。

■埋葬主体部

埋葬主体部は後円部のやや西に偏って設けら

れ、古墳の主軸に直交して南北（N-2°-W）向きにつくられています（図2）。頭位は北であったと思われます。

墓壇の区画と考えられる部分に、おおぶりの板状の緑色片岩をやや外に傾けて楕円形に並べています。上端で南北約4.4m東西2.5mあります。

床には赤みの強い粘土を敷いて、その上に木棺を据えたのだと考えられます。木棺の東西両側に板状の緑色片岩を並べ石槨せつかくとしています。南側は緑色片岩を1枚だけ使っています。



図2 石槨（北から）

■時期

墳丘の後円部東寄り、後円部東南裾、くびれ部、前方部端の流出土から複合口縁の壺などの土師器破片が出土しました（図3）。



図3 出土土器

これらのうち、図3右下の頸部の折り返しや口縁の立ち上がりの垂直なものは、宮谷古墳の壺と非常に似ています。ただし宮谷古墳の壺よりも若干新しくなりそうです。

墳形から見ても古い古墳に位置づけられそうので、この古墳の築造時期は3世紀末から4世紀初頭と推定されます。（考古担当：高島芳弘）

1月から3月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ	行事名	実施日	実施時間	対象(人数)
土曜トピックス	小さな前方後円墳 —石井町前山古墳群—	1月12日(土)	13:30~15:00	小学生から一般 (50名)※1
	南の島の草花	2月9日(土)	13:30~15:00	小学生から一般 (50名)※1
	インドネシア ~ジャングルの小さな動物たち~	3月9日(土)	13:30~15:00	小学生から一般 (50名)※1
室内実習	落ち葉の中のいきものたち	1月27日(日)	14:00~16:00	小学生から一般 (40名)※2
室内実習 (こども向け)	まぼろしの食べ物をつくろう	1月20日(日)	13:30~15:00	小学生のみ (20名)※2
	ベーゴマをまわしてみよう	2月10日(日)	13:00~16:00	小学生から一般 (30名)※2
	阿波の歴史かるたであそぼう ②かるたあそび	3月24日(日)	13:30~15:00	小中学生のみ (25名)※2
歴史散歩	古墳見学②	2月24日(日)	13:00~16:00	渋野町 小学生から一般 (30名)※2
	貞光を歩こう	3月17日(日)	10:00~14:00	貞光町 小学生から一般 (20名)※2
みどりの工作隊	竹であそぼう	2月3日(日)	13:00~16:00	小学生から一般 (20名)※2
企画展関連行事	企画展展示解説①	2月24日(日)	13:00~14:00	企画展「信仰と美術」 観覧料が必要 (50名)※1
	企画展展示解説②	3月2日(土)	13:00~14:00	企画展「信仰と美術」 観覧料が必要 (50名)※1
	企画展記念講演会「信仰と美術」	3月3日(日)	都合により中止いたします	
	企画展記念講演会「信仰と美術」	3月10日(日)	13:30~15:00	文化の森イベントホール 聴講無料 (300名)※1

- ※1は、申し込み不要です。その他は、往復はがきでお申し込みください(各行事の1カ月前から10日前までに届くように)。
- ※2は、小学生の場合保護者同伴。
- くわしいことは博物館にお問い合わせください。

博物館友の会で新たな発見を

徳島県立博物館友の会は結成してはや10年。毎年500名前後の会員が様々な行事を通じて、楽しく有意義な活動をしています。

この10月には、研修会で秋の蒜山・大山を訪れました。他の観光ツアーとはひと味ちがう研修旅行に参加した方も大満足な様子でした。これからもいろいろな行事を考案中です。皆さんも博物館友の会で学ぶ喜びを味わってみませんか。入会をお待ちしています。



秋の一泊研修旅行「蒜山・大山」 (大山中腹にて)

博物館ニュース No. 45

発行年月日 2001年12月1日
編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山
TEL.088-668-3636 FAX.088-668-7197
<http://www.museum.comet.go.jp>